

事項	水稻直播栽培におけるは種直後の落水期間中に使用可能な除草剤（サターンバアロ乳剤、サターンバアロ粒剤）の使い方												
ねらい	は種直後落水期間中に使用可能な初期除草剤としてサターンバアロ乳剤及び粒剤が水稻に対して安全性が高く、除草効果の面でも実用性が認められたので参考に供する。												
指導 参考 内容	1 薬剤名等												
	除草剤名		有効成分及び含有率 (%)				人畜毒性		魚毒性				
	サターンバアロ乳剤		プロメトリン5.0 ベンチカーブ 50.0				普通物		B				
	サターンバアロ粒剤		プロメトリン0.8 ベンチカーブ 8.0				普通物		B				
	(注) 各有効成分の総使用回数の限度はいずれも2回												
	2 使用方法												
	除草剤名		サターンバアロ乳剤				サターンバアロ粒剤						
	処理方法		落水土壌表面散布										
	適用土壌		壤土～埴土										
	使用時期 (殺草限界葉齢)		は種直後～イネ出芽前 (ノビエ1.0葉期まで) ただし収穫90日前まで				は種直後～イネ出芽前 (ノビエ発生始期まで) ただし収穫90日前まで						
使用量 (総使用回数)		原液800ml/10aを 70～100l/10aに希釈 (2回)				6kg/10a (2回)							
3 除草効果													
雑草名 除草剤名		一年生雑草				多年生雑草						表層剥離	
		ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	一年生広葉	マツバ	ホタルイ	ヘラオモダカ	オモダカ	ミズガヤツリ	クログワイ		ヒルムシロ
サターンバアロ乳剤		◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—
サターンバアロ粒剤		◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—
(注) 除草効果：◎極大、○大、□中、△小、×小～無、—登録無し													
期待される効果	水稻湛水直播栽培のは種後落水管理時期の雑草防除が可能となり、水稻直播栽培の安定生産が図られる。												
利用上の注意事項	1 本資料は平成17年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/nouyaku/)を確認すること。 3 有効な直播向き除草剤との体系処理を前提とする。 4 散布時に種子が露出していたり、水稻の出芽後に使用すると薬害を生じる。 5 粒剤は田面が乾燥した状態では効果が劣るので、走水を行い、落水してから処理する。												
担当	青森県農林総合研究センター 水稻栽培部						対象地域		県下全域				
発表文献等	平成15～16年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集												

【根拠となった主要な試験結果】

表1 雑草調査、薬害及び除草効果

(平成15~16年 青森農林総研)

試験年次	除草剤名	処理時期	処理量 (/10a)	雑草風乾重比 (%)							薬害	収量 (kg/10a)
				ノビエ	カヤツリ グサ	コナギ	広葉 雑草 ※1	ホタル ※2	ミスガ ヤツリ ※2	合計		
平成15年	サダーンバアロ乳剤 →トップガンフロアブル	+0→2.5L(2.5)	800ml	t	-	0	0	3	t	t	極微	524
		+5→2.5L(3.0)	→	1	-	0	0	1	1	1	極微	458
		イネ出芽始→2.5L(4.3)	500ml	t	-	0	0	1	t	t	極微	530
	比) アロスバ-A1キロ粒剤36	2.8L(1.3)	1kg	12	-	0	(26)	2	0	12	無	321
参) トップガンフロアブル	2.8L(1.3)	500ml	16	-	0	7	3	5	15	極微	370	
平成16年	サダーンバアロ乳剤 →トップガンフロアブル	+0→3.0L(2.0)	800ml→	0	0	0	0	0	2	0	無	583
		+5→3.0L(2.0)	500ml	2	0	0	0	2	0	2	小	512
		イネ出芽始→3.0L(2.0)	500ml	2	0	0	0	2	0	2	小	512
	比) アロスバ-A1キロ粒剤36	2.5L(1.1)	1kg	t	0	0	(78)	1	10	6	無	571
参) トップガンフロアブル	3.0L(1.5)	500ml	0	0	0	0	1	5	t	極微	598	
平成15年	サダーンバアロ粒剤 →トップガンフロアブル	+0→2.5L(2.5)	6kg	13	-	0	0	5	0	12	極微	397
		+5→2.5L(3.0)	→	11	-	0	0	13	0	11	極微	464
		イネ出芽始→2.5L(4.3)	500ml	2	-	0	0	1	0	2	極微	545
	比) アロスバ-A1キロ粒剤36	2.8L(1.3)	1kg	12	-	0	(26)	2	0	12	無	321
参) トップガンフロアブル	2.8L(1.3)	500ml	16	-	0	7	3	5	15	極微	370	
平成16年	サダーンバアロ粒剤 →トップガンフロアブル	+0→3.0L(2.0)	6kg→	6	0	0	0	3	0	3	無	593
		+5→3.0L(2.0)	500ml	0	0	0	0	4	0	0	小	570
		イネ出芽始→3.0L(2.0)	500ml	0	0	0	0	4	0	0	小	570
	比) アロスバ-A1キロ粒剤36	2.5L(1.1)	1kg	t	0	0	(78)	1	10	6	無	571
参) トップガンフロアブル	3.0L(1.5)	500ml	0	0	0	0	1	5	t	極微	598	

(注) 1 は種日：平成15年；5月12日、平成16年；5月11日(湛水代かき作溝条播方式)。

2 処理時期：“+”はは種後日数、Lはノビエ葉齢、()内の数字はイネ葉齢。

3 雑草風乾重比：無処理区の値を100%として示した。雑草風乾重の無処理区比が0.5%未満のものは“t”で示した。

※1は対象外雑草（SU剤抵抗性アゼナ）を含む。

※2は対象外雑草。

4 薬害：平成15年 すべての区において芽の白化が見られたが、回復は早くその後の生育に影響はなかった。

平成16年 イネ出芽始処理において、出芽抑制がやや強く見られ、回復も遅かった。

5 収量：収量は10a当たり粗玄米重。

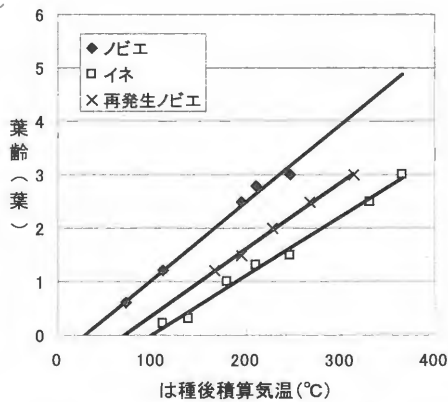


図1 ノビエ及びイネの葉齢推移
(平成15年 青森農林総研)

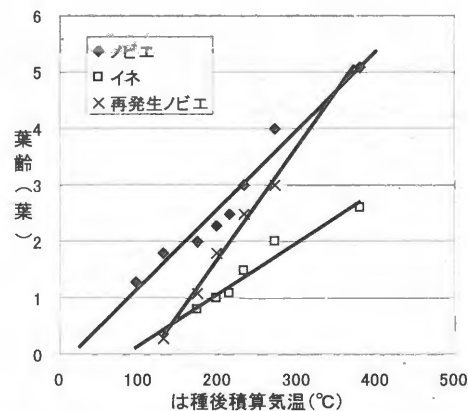


図2 ノビエ及びイネの葉齢推移
(平成16年 青森農林総研)

(注) 再発生ノビエはサダーンバアロ処理後に発生したノビエ。